

令和5年度議会運営委員会行政視察報告書

議会運営委員会委員長 中島賢治

- 【視察日程】 令和5年11月16日（木）～11月17日（金）
- 【視察委員】 委員長 中島 賢治
副委員長 川合 隆史
委員 桜井 秀夫、伊藤 隆広、前田健一郎、
椛澤 洋平、守屋 聡、田畑 直子、
盛田 眞弓、森山 和博、三須 和夫

【視察地及び調査事項】

- 1 札幌市議会（11月16日）
（1）議会改革について
- 2 千歳市議会（11月17日）
（1）議会改革について

【視察報告】

1 札幌市議会

調査目的	<p>札幌市議会では、議会の機能強化・改革に関するテーマを協議するため、検討組織を設置しており、これまで議員の任期を1サイクルとして、長きにわたり様々な改革に取り組んできている。</p> <p>そこで、札幌市議会における議会改革の取組の経緯、直近の検討・改革事項、今後の検討事項等について調査を実施し、本市議会の議会改革及び機能強化に向けた参考とする。</p>
視察概要	<p>1 調査項目 (1) 議会改革について</p> <p>2 説明者 議会事務局 政策調査課 政策調査係長</p>  <p>3 主な質疑（□：質疑、■：答弁） □ タブレットの導入について、どのような議論や経緯があったのか伺う。 ■ 検討の際には、金額も大きく、公費で全て整備するのはどうか、さいたま市、堺市、神戸市などのように個人所有ではどうかという意見もあった。一方で、公費で紙配付しているものをデータに変えるのであれば、環境整備も含めて公費とするのは一つの考え方ではないかとの意見や、事務局としても同じ機種を使用することで管理しやすいことや、情報管理やセキュリティーの面でも有効との意見があり、公費での導入に至った。 機種については、様々な機種を比較したところ、多少重いものの、画面が大きい機種が良いという結論になった。</p>

- タブレット端末について、4年間のリース契約とのことだが、費用について伺う。
- タブレット端末本体、保守、アプリ、モバイルルーターなどを含めて、おおよそ年間で1,000万円弱かかっている。

- 議員間議論の充実について議会基本条例に規定しているようであるが、実際にどのような場面を想定しているのか。
- 市民の見える場で、例えば条例を提案した場合など、委員会の中で議員間の議論、そういう機会をなるべくつくるようにということで、議員相互間の討議を活発に行う規定を入れた。
 ただ、規定後に検証を行って振り返ると、なかなか市民の見える場での議員相互間の討議は難しい状況にある。

- 政策提案・提言が課題だという認識の中で、超党派を含めた議員提案条例について、何か枠組みがあるのか。あわせて、条例発議の状況についても伺う。
 また、千葉市も委員会のインターネット中継に取り組む予定であるが、運用状況や課題などあれば伺う。
- 札幌市では、議員提案条例は超党派で出しているものがほとんどであり、直近では、昨年度にいわゆる歯科条例を、自民・民主・公明の3党派が中心となって可決した。過去にも、ポイ捨て条例など、4年に1回程度条例を出している。
 インターネット中継に関しては、常任委員会が見られないことが課題であり、要望も来ている。

- 議会基本条例に公聴会と参考人制度の活用に関する条文があるが、実際の活用事例があるか伺う。
- 公聴会は例がないが、参考人制度に関しては過去5年間で3件の活用事例がある。オリンピックの調査特別委員会の際に、オリンピック経験者に来ていただき話を聞いたほか、新型コロナウイルスや北海道新幹線の延伸の関係で専門家の方に来ていただいた。

- 議会の機能強化及び改革を継続的に取り組まれている中で、今年度はこういった議論がなされているのか伺う。
- 今年度議論していることは、委員会のオンライン開催や会議運営の在り方として効果的な代表質問や委員会運営に関する事、また、政務活動費に関する事などについてである。

	<p>また、タブレットの使い方について、現在はペーパーレス会議に特化した内容であるが、今後こういった使い方ができるかという点は、これから話し合っていかなければいけないと考えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 議員歳費に関して、引上げなどの動きはあるのか。 <input checked="" type="checkbox"/> 現在のところは特にない。</p> <p><input type="checkbox"/> 特別委員会には、全議員が少なくとも1つの委員会に所属しているのか。 <input checked="" type="checkbox"/> 現在、3つの特別委員会を設置しており、議長を除く全議員が所属している。</p> <p><input type="checkbox"/> 本会議のインターネット中継のアクセス件数について伺う。 <input checked="" type="checkbox"/> 令和4年度は、本会議のライブ中継が4,293件、録画中継が3,057件である。</p>
委員の所感	<p><input type="checkbox"/> タブレット端末の導入に関しては、公費での運用に関して、市民の理解を得ることが必要であると思った。 札幌市議会も千葉市議会と同様に議会の機能強化や改革について、いろいろな課題が共有できるのだと思った。市民により理解していただける市政運営を目指さなければと改めて確認できた。</p> <p><input type="checkbox"/> 長期欠席議員の議員報酬を減額する規定が設置されており、参考になったが、市民が求める不祥事案に準ずる非違行為に対する議会としての厳格な対応は必要である一方で、要件だけでなく、弁明機会の付与・確保や適正手続きを定める、または既存の規定が（議会の判断が恣意的ではないことを示すためにも）HPなどで市民にも事前に提示される必要があると思った。（非難に値する事案があった時にこのような議論が起きるが、規定として常設されれば、非難性に関係なく一律に適用されるので） 議会基本条例について、札幌市では制定するだけでなく9年後に）検証も行っており、内部検証といえども重要な姿勢だと感じた。個別に選出される地方議員は、集団としての自己検証は得意ではないため、そのような姿勢を残すこと自体が、議会改革の継続性につながると思った。 インターネット中継について、札幌市では特別委員会等が実施され</p>

ているが、常任委員会は複数同時開催のため、設備や職員配置の課題から実施されておらず、千葉市と共通の課題であったことから、千葉市においても設備整備や職員配置の裏付けが必要であることが、より明らかになった。

また、本会議場を見学させていただいて分かったのが、議員の発言は最初の登壇時以外は全て自席で行う造りになっていることから、カメラのアンクルが最低限、議員の人数分あるため、撮影に慣れている職員が必要となっている。この状況を常任委員会にあてはめると、職員配置とともにアンクルを限定することが必要であることが明らかになった。（議論としては出ていた気もするが、改めて実感）

議員発議の条例議案は超党派で提案されており、実績もあるとのこと、一つの方法として効果的かつ合理的であり、大変参考になった。

- 議会基本条例の検証を本市議会でも行うべきではないか。

あわせて、他議会の条例の分析も改めて行い、本市議会基本条例の検証に反映させてもよいのではないか。

- 長期欠席議員の議員報酬を減額する規定の新設は、国・県でもたびたび取り上げられていることであり、様々な意見があると思うが、千葉市議会でも万が一に備えて、検討することが必要と感じた。

議員定数の見直しについては、市街地の人口増加や郊外の人口減少は、全国的なものであるが、総数を固定し、各区で調整するやり方は、千葉市議会も同様で、この流れがしばらく続くものと思われる。

議会のペーパーレス化（タブレット端末の導入）については、千葉市議会も、ぜひとも各自1台の貸与を進めていただきたい。全議員が同じものを配布されることは、セキュリティー問題など、一括管理によるメリットがあると聞き納得した。

- 議会基本条例の見直しにおいて、議員提案条例も超党派による成立もあることから、本市でも党派を超えた条例発議・政策提案の機能強化が必要と感じた。

- 千葉市議会も議会改革は進んでいると感じているが、どこの議会でも同様の課題があると感じた。特にペーパーレス化については、千葉市議会でもセキュリティーを含め、端末選択の課題など悩ましい課題である。超党派での条例制定をされた点は興味のあるところであった。

□ 千葉市では行われていない議会の機能強化や改革として、長期欠席議員の報酬を減額する規定の整備があった。該当議員がいたことから整備されたとのことであったが、今後、市民の負託を受けている者として、対象者がいない場合でも、規定を整備しておく必要があると感じた。今後、若年層から高齢の方までが議員になることを踏まえて、規定を見直す必要があると感じた。

特別委員会のインターネット中継については、本市においても進める必要がある。

議会基本条例については、本市においても、例えば、議員間討論の必要性や政策立案・政策提言の強化などを含めて、見直すことも必要と感じた。

また、大規模災害対応要領についても参考になった。支援本部の設置を可能とするなど、具体的な動きにしていることが良いと感じた。

□ 常に他自治体や時々の政治課題などを受けて見直し、検討できる体制があることは、強みであると感じた。

議会基本条例の策定過程も、出された意見を中心に独自に条文を検討されるなど、札幌市としての「既存の枠組みにとらわれない柔軟な姿勢」という考え方も特徴的だと思った。

令和4年度に改めて議会基本条例の検証を行ったとのこと、1度策定されたものをそのまま放置しないことの大切さを学んだ。


千葉市議会として取り組む際に参考にしたいと思ったのは政策立案と政策提言である。二元代表制としての役割を議会が果たしているかどうかの試金石ともいえる分野で、常任委員会や特別委員会などの調査・研究等の議員間討議の場を活性化し、積極的な政策提案、条例提案へと結実させていくことができると良いと感じた。

市民のため、政策策定のための議員間討議は委員会の運営上も取り入れていただきたい課題であり、繰り返し議論を深めることは良い提案に結びつくものだと思う。

□ タブレット導入において、共通のものを準備することが、情報の管理やセキュリティー面でもメリットがあることは理解できる。

議会基本条例の中に議員間議論の充実について記載があるが、市民にオープンな状態で議員間議論を持つことは難しく、現状も継続して検討しているところであるとのことであった。

2 千歳市議会

調査目的	<p>千歳市議会では、「市民に、より信頼される議会」を目指し、議会改革の取組として、市民の声を聴く機会の設置に取り組んできている。主な取組として、平成24年から「市民の声を聴く会」を開催しているほか、市民アンケート等を実施している。</p> <p>また、議会改革については、主に議会運営委員会を協議の場とし、「議会改革推進プラン」に基づき検討を行っている。</p> <p>今回の視察においては、これまでの取組の経緯や課題等を調査し、本市議会の議会改革及び機能強化に向けた参考とする。</p>
視察概要	<p>1 調査項目</p> <p>(1) 議会改革について</p> <p>2 説明者</p> <p>議会運営委員会委員長、副委員長 議会事務局議事課長、議会事務局総務課調査係長</p>  <p>3 主な質疑（□：質疑、■：答弁）</p> <p>□ タブレット端末の導入状況について伺う。</p> <p>■ タブレット端末は全議員に貸与している。また、Wi-Fi環境も整備している。</p> <p>タブレット端末本体については、安いものから高いものまで選択肢があるが、安いタブレットを用意して、まずは使ってみるということになった。</p> <p>□ タブレット端末の活用状況について伺う。</p> <p>■ 半分以上の議員は完全ペーパーレスで使用している。</p>

- 市民の声を聴く会について、参加希望者の状況について伺う。
また、学生との交流学習会に関して、議員の参加予定人数を伺う。
- 市民の声を聴く会は、当初は対面形式で実施していたが、辛辣な意見が出たり、市民と対立する構図は問題があるのではないかという意見があり、議員と市民が交流をして、意見交換をしながら積み上げていって、それを行政にぶつけていくというのが本来の姿なのではないかと考え、形式を変更してきている。ただ、やり方については、いまだ道半ばだと考えている。
- 広報については、議会だよりやSNS等で行っているが、残念ながら、一方的に発信するだけでは、なかなか人は集まらない。そこで、昨年から開催場所を駅近くに変更したことに加え、今年は各議員が学校に直接周知に行っている。
- 中学校との学習交流会については、基本的に全議員が参加している。中学校3年生が2クラスで70名ほど参加しており、それを3つのグループに分けて実施している。流れとしては、生徒からのプレゼンを受けた後、意見交換を行っている。
- 市民の声を聴く会について、今年度のテーマ設定状況について伺う。
また、開催に向けた準備について、議員と議会事務局それぞれの役割について伺う。
- あわせて、交流学習会のほかに、子ども議会は実施しているのか。
- テーマの設定については、昨年度は2月中旬の開催に向けて1月に公表したところだが、告知が遅かったことが、人が集まらなかった要因なのではないかと考え、今年度は6月に議会運営委員会が始まり次第、日時と場所を調整し、10月下旬から11月上旬にかけてじっくりとしたテーマを設定し公表したところである。細かいテーマについては、各常任委員会で設定することとしている。
- 準備については、議員側はテーマの設定や当日の運営を行っている。広報活動やサポートは事務局が対応している。
- なお、子ども議会については開催していない。
- 議員間討議や議員提出発議などの充実について、本市議会においては議論の最中であるが、千歳市議会における課題や今後の展望について伺う。
- 常任委員会等における議員間討議については、特段、方向性は決まっていない。
- 議員側からの提案についても、意見書の提出以外には特段ない。

	<p>□ 議会のインターネット中継の状況について伺う。</p> <p>■ youtubeでのライブ中継を行っているほか、それとは別に議会中継システムも所有しており、会議種別や発言者ごとに録画中継を配信している。</p> <p>□ 議会改革推進プランについて、どの機関で案を作成し、最終的に決定しているのか伺う。</p> <p>また、市民の声を聴く会について、辛辣な意見が紹介されていたが、全体的な雰囲気はどのようなものか。</p> <p>■ 議会改革推進プランは、各項目について、まず各会派において案を出してもらい、議会運営委員会の場で精査をして、4年間継続するべきもの、達成したもの、新たな項目について決定している。</p> <p>議会基本条例と議会改革推進プランの比較については、条例では議員はその内容に縛られてしまう側面があるが、計画であれば、臨機応変に対応できる点がメリットだと考えている。</p> <p>市民の声を聴く会については、平成27年に対面形式で実施していた際は、議会改革の進捗状況を説明し市民に理解を求めるといった内容になっており、強い思いのある市民の方から様々な意見があった。それに対して、議員側は議会全体として臨んでおり、議員個人としての発言ができず、なかなか明瞭なお答えができなかった。</p> <p>意見を言う相手は市民ではなく行政ではないかと考え、ワーキンググループでのグループディスカッションのような形とし、良かったと感じている。</p> <p>□ 市民の声を聴く会で出た意見について、その後、施策に反映された事例があれば伺いたい。</p> <p>■ 具体的に新たな事業が始まったというところまでは、現時点では見受けられない。また、そういった検証もできていない点は、今後の課題だと考えている。現状は、各議員がそれぞれの一般質問等に活用している。</p>
--	--

<p>委員の所感</p>	<p>□ 千歳市は人口10万人規模の都市であり、千葉市とは違う点もあるかと思われるが、「市民の声を聴く会」を開催し、その点を議会改革の重要な取組としているところには非常に感銘を受けた。</p> <p>都市の大小にかかわらず、直接市民から声を聴くという根本的なことを、千葉市としてどのように仕組みをつくるかを考えさせられると思った。</p> <p>□ 条例より計画の方が民意の変化に対応できるとの考えに基づいて議会改革推進プランを策定しているのが特徴で、大変参考になった。</p> <p>改革にはPDSサイクルが重要だが、計画のほうが本サイクルにはなじみやすい印象を持った。その一方で、議員の権利義務やいわゆる身分に関する事項については、条例により定めるという、これら千歳市の議会改革の方法論について、条例の方が対外的には「やってる感」を醸し出せるが、実務的にはPDSサイクルの伴う計画策定の方が効果的だと思った。</p> <p>議会改革推進プランについては、会派で意見を出し合って策定し、議会運営委員会で決定しており（千葉市では議会運営活性化推進協議会がほぼその機関に該当するが）、4年1期のサイクルとどう噛み合わせるかが眼目である。（実際には、前期の最後半期で決められる部分が多い）</p> <p>「市民の声を聴く会」も特徴的な取組であり、第4回までは議会改革の報告が主として行われたが、そこに足を運ぶ市民の視点は、市民生活の向上というよりも議員や議会へのクリティカルな視点に偏る印象をもった。議会や議員に対する不服意見を届ける制度は別途設定し、市民の声を聴く会は現行のように、一緒に市政に取り組む姿勢が有意義と感じた。</p> <p>「市民の声を聴く会」が第5回目以降は常任委員会ごとにグループ分けし、各グループでテーマ設定してグループトーク形式となったことは、上記の経緯からも非常に有益だと思った。</p> <p>タブレット端末の導入について、全員に貸与しており、年間250万円弱のランニングコスト（イニシャルコストは500万円程度）は低廉である。議員の半数が完全ペーパーレスを実施しているのは、導入の効果を証明している。</p> <p>タブレットの検索機能を有効に活用されており、議員自身が「議員のDX化」、「議会活動のDX化」を目指す必要があると感じた。（検索だけではDX化ではないが）</p>
--------------	--

	<p>□ 条例ではなくプランにて議会改革を進めていることにより、条例より早く課題に対応できるという点について参考になった。</p> <p>市民の声を聴く会の検証はしていないという点については、これから改善・発展するのだろうと感じた。</p> <p>□ タブレット端末の導入については、全議員にタブレットを配布してペーパーレス化に取り組んでおり、議場にもPC・タブレットの持込みをすることにより、膨大な紙資料がなくなることで、慣れてしまうと検索等、とても便利で、議員間の共通事項となるので、事務局としても、管理しやすいとのことであった。</p> <p>市民の声を聴く会について、課題としては、周知や参加者の確保であると聞いた。千葉市でもぜひとも開催したいが、規模感や議題が課題になると思う。また、対面式にすると対立構造ができてしまうので、避けたほうが良いと思った。</p> <p>□ 議会改革において、4万世帯に対してアンケートを配布し、議会改革の意見を聞く取組は重要だと感じた。</p> <p>人口減少などの課題を中高生と議論して意見を取り入れていくことや、市民の声を聴く会でテーマを周知して、市民と一緒に議論していく取組は本市でも展開すべきと感じた。</p> <p>□ 市民と議員が身近な関係をつくり、市民により信頼される議会という目指すテーマに向かい突き進んでいる姿に感銘を受けた。</p> <p>また、中高生を中心とした交流学習会を行っていることにも驚きがあった。</p> <p>感想としては、人口が10万人に満たない市であることで、行政、議員、市民が我々千葉市よりかなり身近な関係で、市政運営ができているのだと思う。</p> <p>ただ、我々としても、市民の声を反映できる議会改革、市政を目指さないといけないと感じた。</p> <p>□ 市民アンケートを取って議会改革推進計画を策定するところが良いと感じた。</p> <p>また、中学校等の交流を議会として行っているところは取り入れたいと感じた。中学校における主権者教育にもつながると感じる。</p>
--	---

	<p>市民の声を聴く会についても、テーマを設定することにより、前向きな意見を聞くことができると感じた。高校・大学を巻き込むことは重要と考えている。</p> <p>また、場所を図書館とするなど議会ではないところで行われているのが良いと感じた。</p> <p>若者の政治・社会参加を促す機会の創出も重要な役割と感じた。</p> <p><input type="checkbox"/> 市民の声を聴く会を継続して形を変化させながらも続けられており、議会改革の目標の市民により信頼される議会に向かわれていると感じた。</p>
--	--